

平成29年度
事業計画書
収支予算書

自 平成29年 4月 1日

至 平成30年 3月31日

一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

平成 29 年度事業計画書

■ 基本方針

2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを契機に、全ての人が共に生活できる社会の実現を加速させるため、展覧会および舞台芸術公演等を開催し、これら事業の実施を通じて多様な価値観や生き方があることを伝え、それぞれの個性を祝い、支えあう社会のあり方を探り、人々の固定観念を変える契機となることに寄与することを目的として事業を行う。

■ 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS の実施

1. 目的・目標

障害者による表現活動を展覧会及び Web、紙媒体等により周知させ、それを契機として障害者への理解を高めより良い在り方や新たな関係性や試みを生み出し、多様な個性を祝うインクルーシブな社会の実現を目指すことを目的とする。

本事業により、障害者及び彼らの表現活動をこれまで以上により身近な存在として捉えることができるような出会いの場を提供し、作者と直接コミュニケーションを重ねながら、様々な人々が直接触れ、関われるきっかけになるよう目指す。

2. 事業内容

a. Museum of Together 展の開催

- ・ 第 1 回

時期 2017 年 10 月 13 日～10 月 29 日

場所 スパイラルガーデン、スパイラルカフェ

- ・ 第 2 回

時期 2018 年 3 月～1 か月

場所 日本橋

b. Web 等ソーシャルメディアによる情報発信

- ・ ホームページ

Museum of Together 展開催のお知らせ、障害者芸術並びに作者を取り巻く環境、イノベーションを取材し、情報を発信する

- ・ ソーシャルメディア

Instagram、Facebook に記事を紹介し、本事業の周知を促す。

- ・ 紙媒体による情報発信

Web と連動し、年 2 回程度のペースで情報を発信する。

c. 東京シンポ ～障害者の文化芸術を考える会議～

- ・ 時 期 2017 年 9 月 9 日(土) 午後(3 時間半程度)

- ・ 場 所 東京都港区六本木周辺

- ・ 内 容 第 1 部：基調講演、第 2 部：フリーディスカッション

■ 2020 年国際障害者舞台芸術祭(仮称)の開催準備

1. 開催目的

障害の有無、国籍、言語、性別、世代の異なる多様な文化と人による「2020 年国際障害者舞台芸術祭」では、新しい舞台芸術の創造と表現を通じて、誰もが舞台芸術活動に参加できる環境づくりを構築し、2020 年以降も、障害のある人が活躍できる場を広げ、多様な人が共に生きる社会の実現を目的とする。

それに先立ち、本年度はその準備年として、アーティストの発掘と育成、2018 年 3 月に開催される「アジア太平洋障害者芸術祭」への出品作品の企画制作、アーティスト調査、システムの研究開発等を行い、世界最先端、最大規模となる芸術祭の基礎を固め、幅広い情報発信を図ることとする。

2. 事業内容

a. 国内外のアーティスト、カンパニー調査

2020 年の芸術祭に参加するアーティスト、カンパニーの情報を収集。作品、アーティストの実態を見聞き調査する。国内外の現地調査のほか、インターネットや専門家からのヒアリングなどを通じた調査も行う。

b. トップ・アーティストの発掘（オーディションの開催）

全国を対象に障害のあるアーティスト（ダンス、演劇、音楽）のオーディション（ワークショップ形式）を行い、2018 年のアジア太平洋障害者芸術祭に出品する公演のキャストを決定するとともに、2020 年に向けた人材の発掘に取り組む。

c. トップ・アーティストの育成、トレーニングプログラムの開発

2018 年のアジア太平洋障害者芸術祭、2020 年芸術祭にトップ・アーティストとして表現できる人材の育成プログラムを実施。2020 年までに国内で約 10 名のトップ・アーティストの育成を目指し、本年度は基礎的なトレーニングを中心とする。

d. アジア太平洋障害者芸術祭（シンガポール）出品作品の企画・制作

2018 年 3 月にシンガポールで行われるアジア太平洋障害者芸術祭に出品するためのオリジナル作品を企画制作する。

e. 多言語対応字幕、音声ガイドの研究・開発

2020 年の芸術祭で多様な人が鑑賞できる最先端システムの構築を目指し、プログラムの研究と開発を行う。

f. 上記プログラムに関する情報発信の実施

ホームページの開設、および、インターネットを通じた情報公開のほか、障害のある当事者たちに届く、様々なメディア（チラシ、ロコミ、ネットワークの活用など）での広報を試みる。全国で行うオーディションを劇場や文化施設、福祉関連施設、芸術団体等と連携することで、社会的波及効果を高め、プロモーション活動の一環とする。

2020 年開催までのドキュメンタリー企画をテレビ局にアプローチするほか、マスメディア全体への広報活動を実施する。

日本財団DIVERSITY IN THE ARTS 収支予算書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

収入の部		支出の部	
事業活動収入		事業活動支出	
1. 事業活動収入	199,045,200	1. 事業活動支出	149,167,500
基本財産運用収入		障害者の芸術活動に関わる展覧会の運営及び情報発信	35,290,000
助成金収入計	199,045,000	障害者のアート作品を展示する展覧会「(東京展)Muesum of Together」展の開催	68,090,000
障害者の芸術活動に関わる展覧会の運営及び情報発信	64,540,000	2020年国際障害者舞台芸術際(仮称)の開催準備	37,187,500
障害者のアート作品を展示する展覧会「(東京展)Muesum of Together」展の開催	68,090,000	東京シンポ ～障害者の文化芸術を考える会議～	8,600,000
2020年国際障害者舞台芸術際(仮称)の開催準備	57,815,000	2. 管理費支出	49,877,500
東京シンポ ～障害者の文化芸術を考える会議～	8,600,000		
雑収入(受取利息)	200	3. 予備費支出	0
2. 投資活動収入	0		
当期収入合計	199,045,200	当期支出合計	199,045,000
前期繰越収支差額	1,982,188	当期収支差額	200
収入合計	201,027,388	次期繰越収支差額	1,982,388